

別府史談会

創立三〇周年記念事業の

企画にあたって

庶務担当副会長 恒松 栖

一 創立三〇周年記念を迎えて

別府史談会は、昭和六二年春に結成され、平成二八年春には創立三〇周年を迎えることとなった。つい先日、創立二〇周年記念事業を実施したばかりのような気がしていたが、月日の流れは速いもので、三〇周年を迎えることになった。

三〇周年という大きな節目の年に巡り会うことが幸か不幸か人それぞれであろうが、私たちは歴史研究をする者として最大のチャンスであると捉え、企画運営に積極的にかかわることにした。

二 三〇年間を振り返って

三〇年間にわたる会員諸氏の歴史研究にささげられた情熱や業績はなにも代えがたい貴重なものばかりである。

これら郷土別府の歴史研究を数多く手がけ、愛郷心を養い、郷土の発展に寄与することを目的として多くの人々が活躍された。その一端を後世の人々にお届けすることが創立三〇周年記念事業の意義と考え、諸計画を立案することとした。

創立三〇周年記念事業としては様々なことが想定されるが、主要な記念事業として、まず創立記念式典を行うことであろう。式典に於いては、これまでのあゆみを振り返りながら次世代創造のスタートとする。また、これまでのあゆみや経験をもとに新企画の事業を進める。その一つとして史跡探訪を幅広くとらえ充実したものにしたい。さらに、これまでの研究実績を踏まえながら、なかなか手が届かなかった領域を中核にすえた内容をもりこんだ記念出版物の発刊を計画したいと考えた。

三 史談会事業の概要をふまえて

別府史談会は、時代や社会の変化によって多くの話題や課題をもたらす事柄について、鮮新でしかも基本となる捉え方を一流講師を招き「講演会」として開催実施している。また、会員の日常の研究調査の成果を「会員研究発表」として公表し、より充実した成果を生み出す機会を設けている。

また、「史跡探訪」として、市内史跡及び市外史跡探訪を行い、現地で実物で具体的に学び合う場を設定している。くわえて、これまでに研究し学んできた成果を社会教育関係団体や施設での講座講師として援助してきた。

さらに、会員をはじめ講演会講師の論稿等を盛り込み、一年間の研究の成果を会誌「別府史談」として年刊発刊するなどの事業を実施している。

これらの事業を推進するために、一六名による役員会を不定期ではあるが開催し、各事業の充実した計画・推進・実施・反省のサイクルでことを進めている。各事業の具体的な推進に当たっては事務局長を中心に再三にわたって小委員会を開き、会員の要望を生かして実施している。

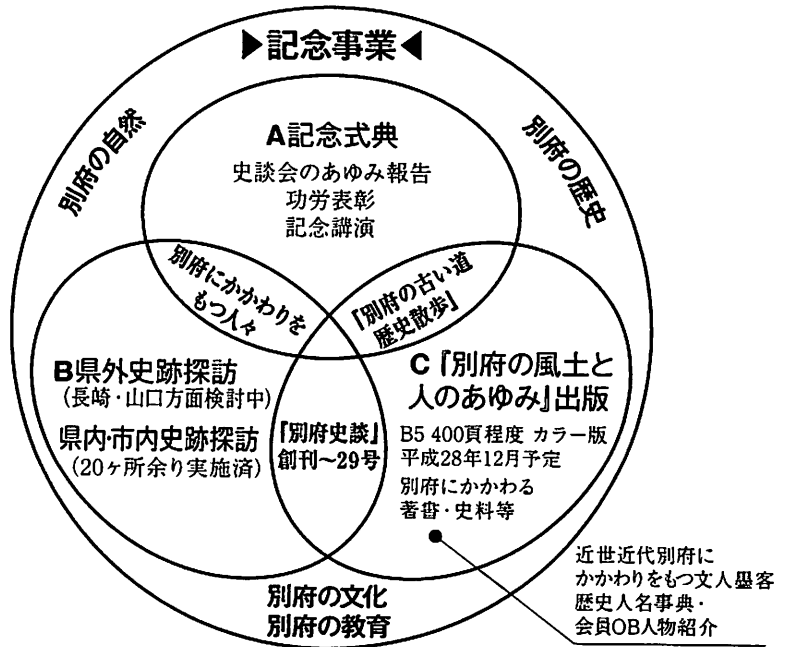
四 三〇周年記念事業の全体構想

三〇周年記念事業の全体構想を下図のように捉え、計画することにした。

① 三〇周年記念式典・特別記念講演

記念式典は平成二八年五月の定例総会に合わせて実施し、別府史談会の主要なあゆみを振りかえるとともに、多年にわたって別府史談会に対して多大な功労・功績を残された方々

別府史談会 30 周年記念事業全体構想図



や会員の研究研修への積極的な支援を行った方々への表彰を行う。合わせて、別府史談会発展の礎となる特別記念講演会を開催する。これらの具体的な内容については、多くの会員の声を聴きながら運営実施するところである。

史談会が発足してから三〇年間の間に会員を務められた

方々が七五〇名にも達している。その中で創立以来三〇年間にわたって継続して会員をされた方が二二名おられ、これら会員の物心両面にわたる支えは大変重いものである。

史談会の生命線であります研究論文や研究報告を毎回のように行い、会誌『別府史談』への寄稿論文が二〇本を超えている方や、その数に迫る勢いで積極的に研究を推進している方々も多数おられる。また、別府史談会を代表して他の諸団体とのかかわりで、多くの業績を積まれた方もおられ、これらの方々への功労も見逃せないものがある。

② 市内・市外史跡探訪

これまでに市内史跡探訪を実施した場所は数多くあり、二〇ヶ所以上で、すでに市内周辺部を除いて一巡したようである。また、市外史跡探訪については、県内視察と県外視察とを各年に実施してきた。県内は大分市をはじめ佐伯・国東・日田・竹田・臼杵・安心院・杵築等で、県外では福岡・熊本、佐賀等の県外視察地を選び実施してきた。長時間かけての交通手段や期日の問題などが多く、なかなか実施できなかったが、記念事業の一つとして行うように具体的に計画したい。

これまでによせられた声によると、一泊二日を予定した場合、長崎方面（長崎市内、出島・クラブ邸・外海の石積集

落景観）や山口方面（萩・石見銀山）等が候補地にあがっているので検討中である。

③ 記念出版物については、『別府の風土と人のあゆみ』とし、下記のように計画いたしました。

第一部 別府の風土として別府の自然、歴史、文化、教育な

どのあゆみをコンパクトにまとめる。

第二部 別府にかかわりを持つ文人・墨客等のあゆみや業績をとりあげ明示する

第三部 会誌『別府史談』創刊号以来の主要な事業や研究実績のうち特色あるものをまとめる。

第四部 別府の歴史研究にかかわりを持つ現会員や別府出身の関係者などのあゆみを人物紹介で掲載するとともに、これまでに著された著書・出版物・研究論文等をも紹介する。

右記四部を基に、一人でも多くの方の執筆参加をお願いし、平成二八年一二月を用途にして別府史談三〇周年記念誌『別府の風土と人のあゆみ』として発刊する予定である。

『別府の風土と人のあゆみ』の目次（内容項目）として次のような項目が想定される。

第一部 別府の風土

第1章 別府の自然

第1節 別府を取り巻く町や村 ①別府の位置 ②別府の

特色

第2節 別府の地形の成り立ち ①別府を取り囲む山々

②別府の主要な河川・湖沼 ③別府の高原丘陵地

第3節 別府の気象 ①恵まれた別府の気象 ②別府の自

然災害

第2章 別府の歴史

第1節 別府の歩み ①別府の行政区の変遷 ②別府市の変遷

第2節 別府の交通網の発達 ①別府の古い道 ②海上交

通の発達 ③鉄道交通の発達 ④高速道路の発達

⑤その他

第3節 温泉と街並みの発展 ①自然湧出温泉と共同浴場

②温泉の人工掘削の発達 ③区画整理と街並みの

広がり ④温泉の利用と地熱発電 ⑤別府八湯の

発達 ⑥別府八湯の隙間に広がる街並

第4節 市域の広がりと人口の変化 ①町村合併による市

域の広がり ②別府の人口の変化と特色

③観光客数の動向

第5節 特色ある地域産業 ①特色ある商業 ②特色ある

鉱工業 ③特色ある農漁業 ④特色ある製造業

⑤温泉利用

第6節 別府の名のある建造物・温泉

①中央公民館 ②中山別荘 ③赤銅御殿 ④潮聴

閣 ⑤上富士屋 ⑥糸永邸 ⑦千辛万苦 ⑧旧棧

橋 ⑨観光港 ⑩京都大学博物館 ⑪竹瓦温泉

⑫浜田温泉 ⑬不老泉 ⑭紙屋温泉⑮永石温泉

⑯北浜テルマス ⑰浜脇湯都ピア

第3章 別府の文化

第1節 別府の文化財 ①国宝・鬼の岩屋古墳

②国指定の民俗文化財 ③国指定湯ゆけむり景観

④有形文化財 ⑤史跡・名勝 ⑥天然記念物

⑦保護樹等 ⑧周知遺跡

第2節 別府で生まれた文化活動

①鶴見園少女歌劇団 ②軒を連ねた映画館

③アルゲリッチ音楽祭

第4章 別府の教育

第1節 別府の学校 ①江戸時代の私学 ②明治期の学校

③大正・昭和期の学校 ④小規模校の変遷

- ⑤ 幼・小学校の変遷
- ⑥ 中学校の変遷
- ⑦ 市内高等学校・養護学校等の変遷

第2節

私立学校・大学の変遷

- ① 明星幼稚園・小学校
- ② 別府大学附属高等学校
- ③ 別府溝部学園高等学校
- ④ 別府大学・別府大学短期大学部
- ⑤ 別府溝部短期大学
- ⑥ APU立命館アジア太平洋大学

第3節

別府で産声を上げた学校

- ① 別府徒弟学校
- ② 別府農学校
- ③ 緑丘高等学校
- ④ 別府商業高等学校

第二部 別府にかかわりをもつ人々

第1章

近世・近代別府にかかわる文人・墨客等

- ① 近世の人物
- ② 近代（明治・大正期）の人物

第2章

歴史別府人名事典（近現代）

- ① 政界
- ② 財界・観光
- ③ 学術・文化・芸術
- ④ 教育
- ⑤ 医療・福祉
- ⑥ 女性の社会活動
- ⑦ その他

第3章

別府の歌碑・記念碑・墓碑

- ① 渡辺五郎右衛門の墓
- ② 脇屋儀助の墓
- ③ 野口五輪塔群
- ④ 吉弘統幸の墓
- ⑤ 湯の花組合

- 記念碑
- ⑥ キリシタン墓
- ⑦ 赤松の「遠島八名の塔」
- ⑧ 天間の水利施功碑
- ⑨ その他

第三部 別府史談会のあしあと

第1章

歴代会長及び役員一覧（創刊号より29号）

第1節

歴代役員 ① 歴代役員一覧表 ② 一般会員の推移・変遷

第2章

別府史談の研究内容

第1節

「別府史談」研究論文（論稿） ① 掲載論文題目一覧

第2節

研究の足跡 ① 「別府史談」における研究動向

② 会員の研究動向

第3章

記念講演及び研究発表

第1節

特別記念講演

第2節

記念講演

第3節

会員研究発表

第4章

市内・市外史跡探訪

第1節

年次ごとの史跡探訪先・探訪コース

第2節

中核となる探訪先施設の紹介

- ① 特色ある市内史跡探訪施設
- ② 特色ある市外

史跡探訪施設

第四部 史談会にかかわる人々のあゆみ

第1章 史談会員・OB人物紹介

第1節 会員、OB、著名な人々の業績や思い

①会員の紹介(退会者を含む) ②会の功労者の紹介

第2節 別府にかかわりの深い著書・史料・研究物

巻末索引(人名・用語)

※ 具体的に作業が進むにつれ内容項目が少し変更になることも考えられるのでご容赦願います。

※ 内容項目に応じて一項目は、一ないしは二ページの読み切りにする予定ですが、それも若干ずれるかもしれないことを心配しています。

※ 第四部の会員・OB人物紹介の記事提出が「別府の風土と人のあゆみ」の生命線です。執筆依頼に即してぜひお書きください。書きにくいところや書きづらいところは省かれて結構です。数年か数十年か経ったとき自分の足跡が残されていることのよろこびがきつとわいてくることと思います。平成のこの時代に生きていたあかしとなります。

五 記念事業のスムーズな推進にあたって

三〇周年記念事業に多くの方々が積極的に参加して下さることを切望致しています。

その一は、平成二八年五月に予定しています記念式典に一人でも多くご参加くださり、盛り上げていただきたい。そしてこれまでの別府史談会の歩みを振りかえり、次のステップに向かって力強くスタートしたいものです。

その二は、現在企画中の県外史跡探訪の研修にも初めての「泊を伴う研修」なので、すぐって参加くださることを願っています。具体的な計画案は五月にご提示の予定です。

その三は、事務局より既にお願いいたしております各種の原稿等のお願いを聞き届け、ご提出をお願いします。「別府の風土と人のあゆみ」の本文の原稿となります。

別府市内で二百名を超える会員を有している社会教育団体は他に類がないだけに、充実した内容により、他に誇れる記念事業の一つとして位置付けたいと願っています。